



給食だより

令和2年1月第71号
大東市教育委員会
学校管理課
TEL 870-9102



小学校で有名な
大東市の食育
キャラクターの
トマッピーです

新年あけましておめでとうございます。

冬休みは楽しく過ごせましたか。新しい年を迎えて、気持ちも新たにし、この一年の目標を決めた人もいるのではないでしょうか。今年も、よく食べ、よく学び、よく身体を動かし、元気に楽しく一年を過ごしてほしいと思います。

1月は全国学校給食週間があります。小学校の時には、この取り組みを通して学校給食について考え、いつも給食を作ってくれている調理員さんへ感謝の気持ちを表したことだと思います。この機会に、学校給食の歴史、役割を改めて学び、感謝の心を育んでほしいと思います。

130年

全国学校給食週間 1月24日～30日

学校給食の歴史

学校給食のはじまり

明治時代、山形県鶴岡市で昼食を持参できない子どもたちのために、おにぎりと魚・漬物を用意したのが始まりです。その後、徐々に全国に広りました。

戦争により中断、そして再開

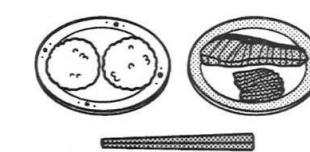
昭和19年、戦争が激しくなって食糧事情が悪くなり学校給食は中断されました。戦後、食糧難で栄養失調や病気にかかる子どもがたくさんいました。そのような子どもたちを救おうと、ユニセフやララ(アジア救済公認団体)を通じて、海外から小麦粉や脱脂粉乳などの食糧が送られてきました。これらの物資のおかげで、昭和21年(1946年)12月24日に学校給食が再開されました。このことを記念して12月24日を学校給食感謝の日としました。

全国学校給食週間

冬休みと重なるため1ヶ月遅らせた1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」としました。今は豊かになった日本ですが、かつて世界の人々からの温かい支援によって多くの子どもたちが救われたことを忘れず、食べ物に感謝する豊かな心を育む機会として、学校給食の役割について改めて考える一週間です。



明治20年
(1889)



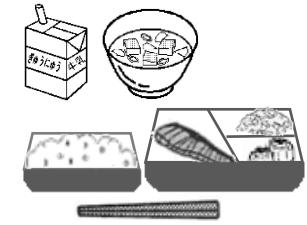
献立 おにぎり、塩鮭、漬物

昭和20年代
(1945~54)



献立 ミルク(脱脂粉乳)
トマトシチュー

大東市の中学校給食
平成25年9月～



学校給食の7つの役割 ～学校給食法より～

健康な体をつくる



望ましい食生活の
お手本になる



助け合い、協力し合う
社会性を身に付ける



自然の恵みに
感謝する心を育てる



働くことを尊び、
感謝する心を育てる



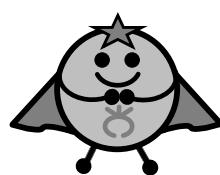
地域の食文化を知り、
未来に伝える



食を通して社会の
しくみを学ぶ



感謝して食べよう



みなさんのもとに給食が届くまでに、
たくさんの人が関わっています。

●田んぼや畑、海や牧場で働く人



米や野菜を作つたり、魚をとったり、牛や豚、にわとりを育ててくれます。

●食べ物を運ぶ人



食べ物をとれた
場所からみんな
の町へ、また学校
まで給食を運んで
くれます。

●食材を扱う人



よい食材を仕入れ、注文に応じて学校や調理場まで届けてくれます。

●給食を作る人



献立を考える栄
養教諭・教育委
員会栄養士や、
給食を作る調理
員さん。

この他に中学校では、お
かずの再加熱やクラス
の人数に合わせて準備
してくれる配膳員さん
がいます。

1月の行事と行事食

1月は、1年を健康に過ごすための願いが込められたさまざまな行事が行なわれます。その時に食べる行事食がとても身近に感じられる月です。

正月
おせち料理



正月
お雑煮



7日

七草がゆ



・春の七草のおかゆ

11日

鏡開き



・ぜんざい・お雑煮

15日

小正月



・小豆がゆ

1月17日は「おむすびの日」

米の収穫時期でもないのに、なぜ1月17日なのでしょうか。それは平成7年(1995年)1月17日に発生した阪神淡路大地震が由来です。

甚大な被害をもたらした地震により、多くの人々が避難生活を余儀なくされ、冬の寒い中、食べるものにも困る状況になりました。しかし、すぐにボランティアによる炊き出しが行なわれ、すぐに食べられる「おむすび」が多く配られました。そのことから、震災を忘れないためという意味や、被災者に炊き出しをしてくれたことへの感謝を「おむすび」という言葉の意味(給食だより10月号掲載)を重ね合わせて平成12年(2000年)に記念日として定められました。ちなみに「おにぎりの日」もあり、日本最古のおにぎりの化石が発見された6月18日となっています。